◎人口問題審議会委員

○学識経験者（50音順）

氏名	現職
安芸皎一	関東学院大学教授
伊大知良太郎	一橋大学教授
大来佐武郎	日本経済研究センター理事長
大浜英子	評論家（家庭裁判所家事調停委員）
大山正	環境衛生金融公庫理事長
金子鋭	富士銀行取締役会長
五島貞次	毎日新聞社論説副委員長
古屋芳雄	日本家族計画連盟会長
武見太郎	日本医師会会長
根津嘉一郎	東武鉄道株式会社取締役社長
福武直	東京大学教授
堀内謙介	農業研修生派米協会会長
美濃口時次郎	福岡大学教授
八木淳	朝日新聞社論説委員
山田雄三	社会保障研究所長
新居善太郎	母子愛育会理事長
井上英二	東京大学教授
太田英一	横浜市立大学教授
大堀弘	電源開発株式会社副総裁
岡崎文規	社会事業大学教授
久留島秀三郎	同和鉱業株式会社相談役
小林繁次郎	農林漁業団体職員共済組合理事長
高杉晋一	海外経済協力基金総裁
前川一男	全日本労働総同盟副会長
樋口弘其	読売新聞社論説委員
堀井利勝	日本労働組合総評議会議長
正木亮	矯正協会会長
三原信一	毎日新聞社人口問題調査会理事
山本登	慶応義塾大学教授

○行政機関職員（官制順）

氏名	現職
弘津恭輔	総理府総務副長官
山本正淑	厚生事務次官
高島節男	経済企画庁事務次官
村上茂利	労働事務次官

◎人口問題審議会専門委員（50音順）

氏名	現職
青井和夫	東京大学助教授
伊藤善市	東京女子大学教授
上田正夫	人口問題研究所人口政策部長
加用信文	東京教育大学教授
小林陽太郎	国立公衆衛生院建築衛生学部長
篠崎信男	人口問題研究所人口資質部長
高橋展子	労働省婦人少年局長
橋口収	内閣総理大臣官房審議室長
安川正彬	慶応義塾大学教授
山本幹夫	順天堂大学教授
渥美節夫	厚生省児童家庭局長
伊部英男	厚生省年金局長
加藤寛	慶応義塾大学教授
久保秀史	国立公衆衛生院衛生人口学部長
斎藤正	文部省初等中等教育局長
柴田徳衛	東京都立大学教授
舘稔	人口問題研究所長
牧賢一	全国社会福祉協議会
山口正義	労働省労働衛生研究所長

日本統計学会第37回総会

昭和44年度の日本統計学会総会および研究報告会は，当初予定されていた関西大学での開催が緊急の事態により不可能となり，朝日新聞大阪本社（13階会議室）において，9月12（金），13（土）の両日にわたり開催された。本研究所からは舘　稔所長はじめ，上田正夫，岡崎陽一および山口喜一の4技官が出席した。

研究報告会は三つの会場に分かれて行なわれたが，予定されたプログラムにおける一般研究報告は24題で

あった．そのうち人口に関連のある報告としては次のものがあった．

固定対象群における全死因群および特定死因群の死亡予測……ＡＢＣＣ　大　竹　正　徳
戦後の国勢調査結果とＣＯＨＯＲＴ累加死亡数の組合せ利用の一方法…大阪大学　飯　淵　康　雄
日本国民生命表の資料からの曲線の作図の供覧と解説……大阪大学　丸　山　　博
最近の職業別にみた人口再生産率……　山　口　喜　一
人口移動の統計的分析……　岡　崎　陽　一

このうち，丸山教授の報告は都合で行なわれなかった．このほか，特別部会において13題の報告があったが，そのうちＡ（予測の実際）において，上田正夫部長が「日本の人口予測とその問題点」と題する報告を行なった．

なお，本年度の共通テーマ報告としては「日本に於ける統計学の現状と将来Ｉ」があり，活発な討論が行なわれた．

（山口喜一記）

国際人口学会ロンドン会議

標記の会議（London Conference of the International Union for the Scientific Study of Population）は，1969年９月２～11日ロンドンにおいて開催された．前回（1967年）のシドニー会議が regional conference であったのに対して，今回は general conference である．

日本からの参加者は，国立公衆衛生院の村松　稔室長，本研究所黒田俊夫部長（以上は本学会の財政援助による参加）のほかに南亮三郎（駒沢大学），河野稠果（人口問題研究所，国連出向中），岡田　実（中央大学，パリ留学中），森岡　仁（駒沢大学）の４氏が参加された．

Session は次の10個の題目別に構成されている．

(1) 人口数学，出生力分析におけるシミュレーション方法とモデルの使用，不完全人口統計の利用，サンプリングと人口学，開発途上国におけるデータ収集の諸問題
(2) 出生力の比較研究，アジア諸国における出生力の変動，ラテンアメリカにおける出生力の傾向，アフリカにおける出生力の傾向
(3) 世代死亡率の研究，先進国における死亡率の社会・経済的格差，周産期と乳児死亡
(4) 堕胎の人口学的側面，家族制度の現状，家族計画の将来発展の展望，家族計画調査の評価方法とその結果，人口政策の諸問題
(5) 人口コントロールの経済学，労働力人口の人口学的側面，人口圧力と経済・人口変動との関係，女子雇用の人口学的側面，人口と土地利用
(6) 世帯構造と規模の変動，教育と人口，家族研究の人口学的側面，結婚の諸問題
(7) 歴史人口学――1800年以前，歴史人口学――1800年以降
(8) 人口学専門家の需給，人口教育の組織，カリキュラムとコースの内容
(9) 国際人口移動の量と構造，移民政策，高能力労働力の移民
(10) 国内人口移動評価の方法，都市化の人口学的側面，国内人口再分布政策と実行方法

上記の同時平行 session のほかに総会 session として「世界人口の現状」と「次の30年間の展望」があり，前者は A. Sauvy により，後者は M. Macura によって報告が行なわれた．

黒田は「国内人口移動の評価方法」(10.1) session の chairman を仰せ付かり，また「都市化の人口学的側面」(10.2) については solicited paper を提出した．（本会議の詳細については，本機関誌第113号に「資料」として載録する予定である）

（黒田俊夫記）